

令和7年度 名古屋市公共事業評価監視委員懇談会 委員からの提言

① 金城ふ頭地区（第2期）都市再生整備計画 （住宅都市局）

- ・誤進入については、依然として多いため課題として明記すべきである。また、関係者と連携した具体的な成果や改善策を記載すべきである。
- ・指標2（推計による地区への来訪者数）については、目標未達は新型コロナの影響ではなく他の具体的な要因を示すべきである。また、成果が伝わるように家具店の駐車台数なども含めて記載するとよい。
- ・今後のまちづくりの方策には、行政のみでなくイベント事業者や関係者と連携した具体的な成果や改善策を記載すべきである。
- ・実施過程の評価は定性的な成果や経過を表記すべきである。
- ・サイン整備については、多様な利用者に配慮した音声案内やデジタルサイネージの導入を検討するとよい。

② 市街地の整備・再生による居住環境の向上と防災性の確保 （住宅都市局）

- ・区画整理事業について、計画の目標や目標未達の要因として、区画整理事業は相手がいて時間がかかるものであること、粘り強く進める旨が記載されているとよい。
- ・指標3（地区内人口の増加）の目標値の達成状況は否定的でなく、前向きな表現とすべきである。
- ・学校施設の新設については、内容が分かるように具体的に表記すべきである。

③ 大規模地震に対する都心の防災性向上 （住宅都市局）

- ・事後評価は、実施した内容・判断理由を具体的に記載すべきである。
- ・特記事項について、経過観察の対象数（例：5年間で634箇所）など具体的な数値を明記するとよい。
- ・大地震や豪雨等の大規模自然災害発生後における経過観察の方法について、事前に検討しておくべきである。
- ・今後の経過観察について、国のガイドラインに加えて名古屋市独自の考え方があればそれを示すべきである。
- ・報道発表等による市民への周知を明記し、防災意識向上につながる取り組みとして示すとよい。

④ 安全・安心で魅力的な総合運動公園を目指す瑞穂公園整備計画

(スポーツ市民局)

- ・防災面（避難収容人数・備蓄・設備等）などの整備効果について、強調してよりよくPRし、市民に安心感が伝わる内容、かつ、市民にどれだけ還元されているかが明確に表現された内容にすべきである。
- ・避難可能人数について、瑞穂公園全体を示すことで、整備内容やトイレ数等の妥当性評価につながるようにすべきである。
- ・費用便益比について、算出根拠・比較資料・想定費用との差異等を明確に示し、評価可能な形にすべきである。
- ・一人当たり面積について、基準は満たしているものの、市基準だけでなくスフィア基準の観点も検討するとよい。

⑤ 名古屋市における魅力ある都市公園づくり

(緑政土木局)

- ・用地取得未達成の理由と今後の対応方針を具体的に示し、市民に対して計画を継続して進めていくことが伝わる表現にすべきである。
- ・指標1（1人当たりの都市公園面積）を確保することは重要なことであり、今後の方針には人口増加を踏まえて取り組むべきである。
- ・事業効果の発言状況および指標3（昨日再編を行った都市公園の整備率）について、具体的な記載にすべきである。
- ・指標1については未達成である一方で、指標2（来園者満足度）および指標3が達成できていることを踏まえて、総合的解釈を記載するとよい。
- ・総合満足度の定義および算出方法について、分かりやすく整理し、テーマ毎の内訳を考察し、振り返りとして特記事項に記載するとよい。

⑥ 名古屋市における安全で安心な都市公園づくり（防災・安全）

(緑政土木局)

- ・災害時も含めて日常の生活を豊かにする重要な事業であり、事後評価の表現を前向きで肯定的にすべきである。
- ・未達成指標について、理由と今後の展望を、達成指標については成果要因を記載し、全体の進捗と今後の展望を総括するとよい。
- ・事業効果の表現について、具体的な記載方法に変え、分かりやすく伝わりやすい内容にすべきである。
- ・指標の「%」「箇所」表現の混在について、分子・分母の提示を含め、結果が分かりやすい表記とするとよい。